

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100763		
法人名	株式会社春風会		
事業所名	春風会きしグループホーム	【ユニット名：1Fユニット】	
所在地	和歌山市栄谷460番1		
自己評価作成日	平成29年2月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3090100763-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成29年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の南側には、広い庭があり、季節の草花や旬の野菜等の収穫や散歩を楽しんで頂けるような工夫をしている。広い庭を利用し年に一度のBBQ大会も大勢のご家族の方や地域の人々にも参加して頂いている。お食事は、家庭的な献立を中心としながら、食べやすさと美しさを盛り込んだ自慢の内容となっている。来訪されたご家族の方も時には、一緒に召し上がられて美味しいとの好評を頂いている。季節折々の内容を盛り込んだイベントの方も、併設の通所介護と合同で行う事で、日頃から双方の交流があり、楽しまれている。ご家族やご友人の来訪も多く、居心地の良い空間を提供できるよう、職員は常にご自宅にお客様をお招きするような心を持ち笑顔で対応するように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物はデイサービスと1階2階、2ユニットのグループホームがある開放的な雰囲気のある複合施設で、内部を自由に行き来ができる。共用空間は清潔に整えられ、ゆったりと過ごす十分なスペースがある。建物南側の庭ではハーブや野菜、季節の花が育てられ、ウッドデッキや庭に出ると季節が感じられる。家族の思いを大切に、重度化や看取りも視野に入れて医療との連携も密にとり、利用者にとって安心、安全な生活が提供できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスには理念に基づいた春風会憲章を唱和し、各職員が理念に基づいた支援を共有し支援を行っている。また、各ユニットの入り口に理念を掲げている。	管理者は仁慈楽款(じんじらっかん)という法人理念を掲げ、仁=困っている人を助けたい、慈=友人のように接する、絡=きずな、歓=楽しんで働く、という内容を、全体会議の中で法人代表者が職員に伝えている。	一人ひとりの職員が常に理念に基づいた行動をとれるよう、管理者からも日頃の業務の中で職員に伝えていくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の溝掃除に参加している。災害時の第2避難所として市役所に登録し、地域に貢献している。施設の足湯のコーナーも近隣の方に開放しており、季節のイベントにも参加して頂いている。	自治会の行事である溝掃除には職員が業務の一環として参加している。足湯コーナーの設備は職員不足もあり最近では使用されていない。デイルームで行われる施設の催しに地域住民が参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽にお寄り頂けるよう玄関先や自治会館にパンフレットを掲示させて頂いている。居宅介護支援事業も併設しており、事業所全体を持って相談をお受けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや近況報告を行っている。また今後の取り組みやイベント等をご相談し、実施に向け取り組んでいる。参加者はご家族、自治会役員、民生委員等の方々に参加して頂き、ご意見を頂戴している。	地域の代表として外部から民生委員、地域包括支援センター職員が出席し、2ヶ月間の状況報告と今後の予定を中心に話し合っている。家族の代表者はその都度声を掛けて決めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターより毎回運営推進会議に参加頂いている。市町村には、介護保険申請、事故報告等を行っている。貴志支所には、運営推進会議の案内をお持ちしている。	折に触れ市役所に足を運び、事務的なことは市役所の指導監査課に聞くなどして、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや法人内研修、外部研修等を通して常に学びを深め、また『身体拘束をしないケア』に取り組んでいる。玄関やユニットの入口も無施錠にし、施設内は自由に移動できるようにしている。	身体拘束をしないことの意味を理解できるよう、「自分がされて嫌なことはやめておこう」と職員間で話し合っている。「ちょっとまって」という言葉が多いのも現実ではあるが、利用者の行動の抑制につながることを認識して少なくする努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様研修の機会を確保し、常に職員が意識を持って不適切な言動をしない・させない事を大切に日々の業務に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修には、毎年職員が参加しカンファレンスにおいて他の職員にも共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学やご契約時には、十分な説明をさせて頂き、ご質問にはご理解をして頂けるまで丁寧な説明を心掛けている。 改定時には、説明とご理解を頂き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族の方からご意見を頂いたり、日頃の来訪時にご意見やご要望をお聞きした内容をカンファレンスにて、職員間で共有している。	週2、3回から、少ない人でも月1回は家族の訪問があり、毎月発行の便りを手渡しして、家族と話す機会を持ち、利用者・家族の声を聞くようにしている。運営推進会議への出席もその都度違う家族に声かけしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者がGHのカンファレンスに参加して職場の問題点を聞き、職員の意見を聞いている。	管理者は常日頃から職員の意見を聞き運営に反映させようとしている。それぞれ月1回開催される全体会議とユニットごとの会議にはほぼ全員の職員が出席しており、話しやすい雰囲気の中で職員意見が多く出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが、代表と各職員の面談を実施している。全職員に無記名アンケートを実施し、問題点や課題を把握し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加できるような仕組みを整えている。社内においても事例発表会や介護技術研修、初任者研修等、積極的に学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や地域の勉強会にも積極的に参加している。公益法人日本認知症グループホーム協会にも加盟し同業者との交流を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に至るまでの経過を考慮し、ご本人の想いに寄り添いながら少しでも早く安心して頂けるように信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を傾聴し、その思いにも出来る限り対応が行えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談を繰り返し行い、どのような支援が必要か、また何が必要なのかを考え、状況に応じた適切な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活を共有する事、掃除、洗濯、調理等の中で、一緒に行う事で平等な信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご入居者のご様子をお伝えし、ご相談やお願いをし、ご一緒に支援の内容や方法を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者のご家族、ご友人、ご近所の方が訪れやすい環境や雰囲気を整えている。ご家族と一緒に外出を頻繁に行われている。またデイサービスとのかかわりも頻繁に行っている。	友人、知人、外部の人が訪問しやすい雰囲気になるよう努め、家族の訪問が途切れないよう関係継続に力を入れており、家族との外出も多くみられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間も常に交流を持ち、ご入居者同士が関わりを持てるように職員が配慮し、孤立しないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族からは、近況報告を頂いたり、お知り合いのご相談をお受けする等、交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でその方の思いや希望を把握する事を大切にし、情報を職員で共有し検討をしている。	日々の生活の中から得た情報を記録し職員間での共有している。入浴時や夜間等、利用者とは1対1になったとき利用者の本音を聞けるときがあり、その言葉を受け止めて利用者の意に沿った暮らしの提供を図っている。	利用者がしたいこと、できることを見出し、受け身ではなく、できること、かわれる機会を増やすこと、役割を見つけることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中でこれまでの生活歴や生活習慣、ご本人の意向を把握する事に努め、職員間で情報を共有し、アセスメントを深める事を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやアセスメントシートを活用し、ご本人の思いや希望を把握する事に努め、職員間で情報を共有し話し合い各入居者の思いを探ることを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミーティングにてご入居者のご様子を職員で共有し、どの様なご支援が適しているのかを検討し、ご本人やご家族と相談しながら作成している。	本人、家族の思いを計画に反映させて作成している。毎月の会議の中で、検討し、入居3ヶ月後、それ以降は6か月ごとに、現状の記録をもとに見直して新たな計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送り表、日課表、職員引き継ぎ表を活用し、情報を職員で共有している。問題点や気付いた事を共有する事で、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時には介護タクシーを利用されたり、併設のデイサービスに体操などに参加されている。		

【事業所名】春風会きし ユニット名 : 1F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の美容室、スーパーでの買い物等、近隣との関わりの中で生活を楽しくして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には主治医の確認をさせて頂き、往診時には職員が付き添い日頃のご様子の情報提供をさせて頂いている。ご様子の変化には、24時間連絡可能となっている。	利用者の主治医と連携を取り往診による診療を受けている。専門医の受診は家族での対応となっているが、緊急時は協力医療機関を受診できる体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護との連携に努め、職員の気付きやご入居者の情報を適切に伝える事で、適切な医療を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族や病院関係者との連携に努め、退院後のケアについて助言を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、ご本人・ご家族の終末期への意向を伺い、当施設での可能な対応について説明をし同意を得ている。また、必要に応じて再度確認し、主治医・訪問看護等の医療職とのチーム作りに努めている	入居時に終末期の希望を聞いている。重度化したときにあらためて意向を確認し、希望があればホームでの看取りケアを行っている。今までに3名の看取りの経験があり、意向に沿って最善の看取りができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、掲示している。またカンファレンスにおいて医療に関する事を学び深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご入居者の参加にて年2回避難訓練を実施している。災害時には地域の拠点となる様に、井戸、備蓄品を整え、今後は災害対策衛生委員会の設置を検討中である。	年2回利用者と一緒に避難訓練を行っているが、夜間を想定した訓練は未だ実施されていない。施設は、地域の避難場所に指定されており、災害時には井戸の使用もできるよう備えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常にご入居者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した支援を心掛けているが、トイレ誘導時や排泄の有無の確認など配慮が足りない場面もある。	羞恥心に配慮して、利用者が恥ずかしいと感じるおそれのある場面では、淡々とした対応を心掛けているが、排泄の有無についての職員間の伝達が大きい声になっていることがある。	利用者に不快な思いをさせることがないように、より一層の配慮が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いや意向を引き出せる様に傾聴する事を大切にしている。またその思いに添えるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごして頂ける様に支援し、その日の体調やご気分に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にご近所の美容室から来て頂いている。またご家族の支援を受け、馴染みの美容室に行かれる方もいる。洋服も出来るだけご本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の持っている力が、発揮出来るよう職員と一緒に食器洗いや盛り付け等を無理なく行って頂ける様に支援している。職員も一緒に食事を頂く事によってより楽しめる支援をしている。	2ユニットとデイサービスの食事の調理はすべて1階の厨房で行われており、食器に盛り付けた状態で各ユニットに運ばれている。食事前は利用者を集めて嚥下体操が行われており、その間に職員が配膳を行っている。	利用者が受け身で待つだけでなく役割をもって行動できることを見つけ、自らの機能や感覚を使って食事を感知、楽しめるような取り組みが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量、摂取状況を記入している。個人の状況や状態に応じて夜間の水分補給も積極的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には嚥下体操を行っており、口腔機能低下が見受けられる方には、歯科医の指導にて個別の食前口腔ケアを実施している。また、毎食後の口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の無い方であっても出来るだけ排泄リズムを把握し、トイレにて排泄して頂ける様に支援し、ご様子を伺いながら声掛けも行っている。	排泄パターンを把握して、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。夜間も、状況に合わせて一人ひとりに合った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用しながら水分補給、乳製品等の定期的な摂取を行っている。主治医の指示にてお薬でコントロールする方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の時間はあるが、外出や面会時には時間を変更する等、対応している。入浴を嫌がられた時は、時間を変更し気持ち良く入浴して頂ける様に支援している。	午前中の時間帯に、週3回程度入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる場合には本人の気持ちに沿ってタイミングを図り抵抗なく入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や乾燥にも注意し、居室の環境を整えている。またご様子に応じた休息を取って頂ける様に支援している。また寝具のチェックシートを活用し清潔保持している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に目的、副作用、用法や用量を記入する事で、職員が把握する様にしている。症状や変化にも注意し、服薬チェックシートを活用し、何重にも確認する仕組みを取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントを大切にし個々の生活歴の把握に努めている。また新しい発見も大切に支援を行っている。お気に入りのパンやお好みの果物等、ご家族の支援を受け楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーへの買い物や公園へお散歩、またドライブに行かれる等、気候が良い時期には外出を楽しまれている。また、ご家族の支援を受け外食や馴染みの場所に出掛けられている。	季節行事の際の外出は行われているが、職員体制に余裕がなく、日常的な外出の機会はあまりないが、屋内だけの生活にならないよう、庭を散策するなど、外気に触れる機会を作るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時にはご自分で支払いをされる方もいる。ご自身でお金を持たれる事で安心感を得ている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお電話を取り次いだり、掛けられる事の支援も行っている。ご自身の携帯電話を使われる方もおり、年賀状やお手紙も届く方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングにはクリスマス時にはツリーを飾ったり、状況によってソファやテーブルの配置替えを行い居心地の良い空間作りに工夫をしている。	共用スペースは、どこもすっきりと清潔に整えられている。装飾品、生活雑貨などはほとんどみられず、利用者の住まいとしての生活感はありません。	装飾品、雑誌や手に取れる生活雑貨などを配置して、生活感がある温かみの感じられる空間作りへの工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に一人掛けのソファを配置配置したり、廊下に三人掛けのソファを配置する等、建物全てが居心地の良い空間となる様に職員で相談し検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持って来られたり、ご家族の思いで選ばれた家具を使いやすく配置している。ご家族の写真を飾られる等、ご本人にとって居心地の良い空間となる様に工夫をしている。	作り付けの収納スペースが用意されており、家具等を持ち込む利用者が少ないので、同じような雰囲気の良い居室が多くなっている。	家族の協力も得ながら、家族の写真や利用者の作品、趣味のものを置くなど、自分の部屋として居心地よく過ごせる居室づくりの工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内で過ごされる時は、センサーを使用しており、出来るだけ安全に自立した生活が送れる環境を整えるよう努めている。		